

## B 母体血清マーカー検査に関する経験

質問開始冒頭に「『トリプルマーカー』や『クアトロテスト』などとも呼ばれる特別な検査です。結果は確率で出されます。すべての病院で行っているわけではありません。妊婦の血液から胎児の状態を推定します」と検査についての説明をしています。

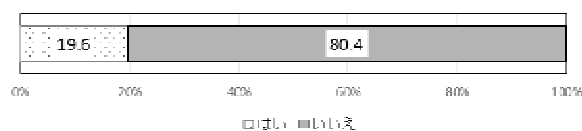
## マーカー検査1 医療施設に行く前に得ていた情報

「その妊娠で医療施設へ行く前に、母体血清マーカー検査について何か情報を得ていましたか」という質問に「はい」「いいえ」で回答してもらった。

医療機関調査では、記入のあった143名のうち、「はい」が28名(19.6%)、「いいえ」が115名(80.4%)で、その妊娠で病院へ行く前に母体血清マーカー検査の情報を得ていない人の方が多いという結果であった。

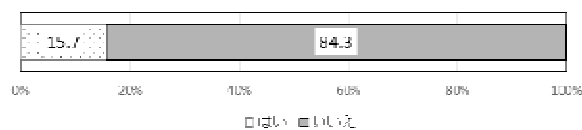
保育園調査では、記入のあった350名のうち、「はい」が55名(15.7%)、「いいえ」が295名(84.3%)で、その妊娠で病院へ行く前に母体血清マーカー検査の情報を得ていない人の方が多いという結果であった。

図B-1 医療機関 マーカー検査の事前情報入手



n=143、ただし、無回答13を除く

図B-1 保育園 マーカー検査の事前情報入手



n=350、ただし、無回答28を除く

## マーカー検査1 事前に得ていた情報 ①具体的内容【医療機関】

医療施設へ行く前に、母体血清マーカー検査について何か情報を得ていたと回答した人に、「どのような情報や内容が得られましたか」と尋ね、記述式で回答してもらった。

- 医療機関調査では、事前の情報を得ていた28名のうち18名が記述していた。回答内容は、「検査の方法や精度に対する評価」「検査によって何がわかるか」「その他」に分類した。
- 「胎児に障害のある確率がわかる」というように、この検査が「確率」で結果がでること、結果が「確実ではない」「確定診断ではない」「全てがわかるわけではない」など、検査の精度や限界について記述した回答が11件あった。この検査で異常・障がい等がわかることが記述されていたのは5件あった。
- 回答に、「異常」という用語が用いられていたのは7件あった。この7件をさらに分類したところ、「異常」「染色体異常」「先天異常」などがあった。このほかに「障害・障がい」という用語、「ダウン症」という用語も複数にみられた。
- 「その他」には、「結果についての考え方」「陽性のときには羊水検査がすすめられること」などがあつた。

## マーカー検査1 事前に得ていた情報 ①具体的内容【保育園】

医療施設へ行く前に、母体血清マーカー検査について何か情報を得ていたと回答した人に、「どのような情報や内容が得られましたか」と尋ね、記述で回答してもらった。

- 保育園調査では事前の情報を得ていた55名のうち42名が記述していた。回答の内容は、「検査の方法や精度に対する評価」「検査によって何がわかるか」「その他」に分類した。
- 「胎児に障害のある確率がわかる」というように、この検査が「確率」で結果がでることについては6件の記述があった。結果が「確実ではない」「完全にわかるわけではない」など、検査の精度や限界についての記述が複数あった。
- 回答に「異常」という用語が用いられていたのは7件あった。この中には、「異常」「染色体異常」「先天異常」などがあつた。このほかに「障害・障がい」という用語、「ダウン症」という用語などもみられた。
- 「その他」には、「結果についての考え方」「陽性のときには羊水検査がすすめられること」「事前に線引きしていないと、結果を知った後では、判断に苦しむ」という検査後の意思決定にかかわる記述や、「確率が高くても低くても納得感が低い検査」という検査の短所を指摘する評価もあつた。さらに「35才以上の妊娠には推奨されている」など検査を受ける人についての基準の記述もあつた。

## マーカー検査1 事前に得ていた情報 ②入手源

医療施設へ行く前に、母体血清マーカー検査について何か情報を得ていたと回答した人に、(情報や内容を得られたのは)「それは誰からですか」と尋ね、記述式で回答してもらった。また、「それは何からですか」と尋ね、「インターネット」「雑誌・書籍」「テレビ」「その他(具体的に)」の選択肢から複数回答で回答してもらった。

- 医療機関調査では「事前の情報を得ていた」と答えた28名のうち11名の記入があつた。
- 保育園調査では「事前の情報を得ていた」と答えた55名のうち22名の記入があつた。
- 「それは誰からですか」という質問については、医療機関調査では「知人・友人」「医療者」という回答が多く、「家族」も若干あつた。このうち、友人には「検査をした」人に限定した記述もあつた。家族は「夫」と「親」だった。その他に自分自身の経験・知識という回答もあつた。
- 保育園調査でも「知人・友人」「医療者(「知り合いの医師」も含む)」という回答が多く、「家族」が若干あつた。家族は「親」のみであり、友人には「検査を受けた友人、受けなかった友人」という記述があつた。その他、「自己学習」や「自分で」、「本人が医療職のため、教育を受けた」などの回答があつた。

## マーカー検査1 事前に得ていた情報 ③情報源

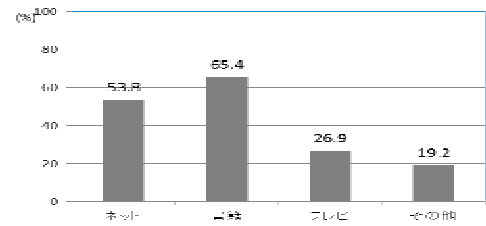
医療施設に行く前に、母体血清マーカー検査について何か情報を得ていたと回答した人に、何から情報を得ていたかを「インターネット」「雑誌・書籍」「テレビ」「その他(具体的に )」から複数回答で尋ねた。

医療機関調査では、事前に情報を得ていたと回答した28名のうち、無回答を除く26名から43件の回答があった。17件(65.4%)が「書籍」から情報を得たと回答し、続いて「インターネット」14件(53.8%)、「テレビ」7件(26.9%)、また「その他」は5件(19.2%)であった。

保育園調査では、事前に情報を得ていたと回答した55名のうち、無回答の5名を除く50名から71件の回答があった。30件(60.0%)が「インターネット」から情報を得たと回答し、続いて「書籍」24件(48.0%)、「テレビ」6件(12.0%)、また「その他」は11件(22.0%)であった。

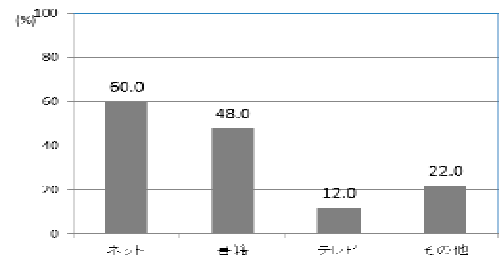
雑誌・書籍、インターネットを中心として、母体血清マーカー検査について事前に情報を得ていた人が多くいたことがわかる。

図B-2 医療機関 マーカー検査の情報入手方法



n=26(43件)、ただし事前に情報を得た28のうち、無回答2を除く

図B-2 保育園 マーカー検査の情報入手方法



n=50(71件)、ただし事前に情報を得た55のうち、無回答5を除く

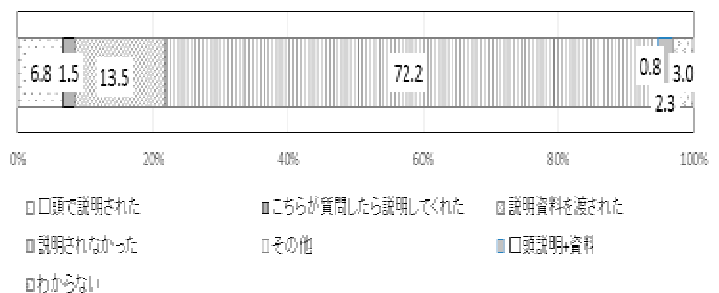
## マーカー検査2 医療者からの説明【医療機関】

「医療者からマーカー検査の目的、方法、リスクなどを説明されましたか」という質問に対し、「口頭で説明された」「こちらから質問したら説明してくれた」「説明資料を渡された」「説明されなかった」「その他」の中から1つ回答してもらった。

医療機関調査では、記入のあった133名のうち、「説明されなかった」が96名(72.2%)と最も多く、次に「説明資料を渡された」が18名(13.5%)、「口頭で説明された」が9名(6.8%)、「こちらが質問したら説明してくれた」が複数名であった。「わからない」は数名であった。また「口頭で説明された」「説明資料を渡された」の両方を選択した人がそれぞれ複数いた。「その他」はわずかであった。

つまり、なんらかの方法で説明されたと答えた人は、医療機関調査では32名になり、検査について説明されていない人の方が多かった。なお、「その他」を選択した人の具体的な記述の多くは「説明の内容を覚えていない」であった。

図B-3 医療機関 マーカー検査の医療者からの説明



n=133、ただし、無回答23を除く

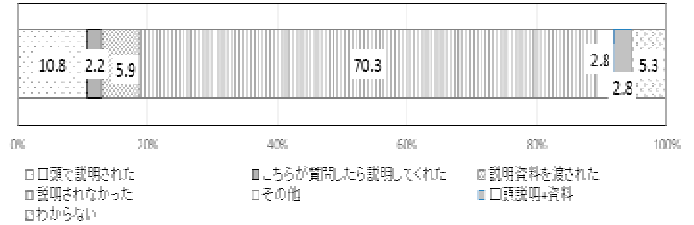
## マーカー検査2 医療者からの説明【保育園】

「医療者からマーカー検査の目的、方法、リスクなどを説明されましたか」という質問に対し、「口頭で説明された」「こちらから質問したら説明してくれた」「説明資料を渡された」「説明されなかった」「その他」の中から1つ回答してもらった。

保育園調査では、記入のあった323名のうち、「説明されなかった」が227名(70.3%)と最も多く、次に「口頭で説明された」が35名(10.8%)、「説明資料を渡された」が19名(5.9%)、「わからない」が17名(5.3%)、「こちらが質問したら説明してくれた」が7名(2.2%)であった。また、「口頭で説明された」「説明資料を渡された」の両方を選択したのが9名(2.8%)、「その他」は9名(2.8%)であった。

つまり、なんらかの方法で説明されたと答えた人は、保育園調査では67名になり、どちらも、検査について説明されていない人の方が多かった。なお、「その他」を選択した人の具体的な記述の多くは「説明の内容を覚えていない」であった。

図B-3 保育園 マーカー検査の医療者からの説明



n=323、ただし、無回答55を除く

## マーカー検査2 医療者からの説明 ①具体的内容

医療者から母体血清マーカー検査の目的、方法、リスクなどについて、口頭や資料なども含め、何らかの説明を受けたと回答した人に、「それはどのような内容でしたか」と尋ねた。

- 具体的内容を記述していたのは医療機関調査では16名、保育園調査では48名であった。このうち、「覚えていない」「忘れた」といった記述もあった。
- 説明の具体的な内容については、保育園調査のみ「目的・方法・リスクの説明があった」と記述された回答があった。結果が、「確率で出る」こと、「確実ではない」ことなど、検査結果の示され方について書かれた回答もあった。
- 異常(染色体異常・先天異常を含む)・障害・ダウン症などの単語もいくつかみられた。
- 「費用についての説明があった」という記述も複数みられた。
- 説明の仕方として、資料やパンフレットなどを渡された、と回答した人も複数いた。
- 検査を受けることに対する医療者の意見や姿勢について書かれた回答もあった。その内容はつぎの3タイプに分けられた。①受ける必要はない、②「希望があれば」など、受けるか受けないかは、妊婦が選択すべき検査である、③「心配があれば」「リスクが高い」「高齢出産なので」など、何らかの条件にあえば検査を勧める。

## マーカー検査2 医療者からの説明 ②評価とその理由

医療者から母体血清マーカー検査の目的、方法、リスクなどについて、口頭や資料なども含め、何らかの説明を受けたと回答した人に、「その説明に満足しましたか」と尋ね、「はい」「いいえ」で回答してもらった。さらに、その理由についても尋ねた。

医療機関調査では、医療者から説明を受けたと回答した32名のうち、無回答の5名を除く27名の回答があった。「はい」(満足)が26名(96.3%)と多かった。

保育園調査では、医療者から説明を受けたと回答した67名のうち、無回答を除く63名の回答があった。「はい」が59名(93.7%)と多かった。

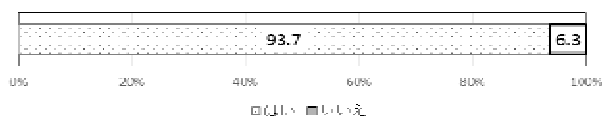
医療機関調査と保育園調査ともに、医療者から母体血清マーカー検査について説明を受けた人のほとんどは、その説明に満足したことがわかる。

図B-4 医療機関 マーカー検査 医療者からの説明に満足



n=27、ただし説明を受けたと回答した32のうち、無回答5を除く

図B-4 保育園 マーカー検査 医療者からの説明に満足



n=63、ただし説明を受けたと回答した67のうち、無回答4を除く

## マーカー検査2 医療者からの説明 ②評価とその理由 医療者からの説明に満足した／不満だった理由 具体的内容

「その説明に満足しましたか」との質問に答えた人に、その理由を記述で回答してもらった。

- 説明に満足した理由として、「詳細な説明だった」や「詳しい説明を必要としていなかった」等の説明の詳しさや、検査の欠点に言及されていたことなどの「説明の質」をあげた回答、「判断につながった」や「納得した」というような「説明が判断につながったこと」をあげた回答、そして「医師の説明に頼るつもりがなかった」というような、「説明に期待しないこと」をあげた回答がみられた。
- 説明に満足しなかった理由として、検査についての説明はあったが「検査をするかしないかの判断に迷った」こと、資料を渡されたが「受けるべきなのか悩んでしまった」こと、「先生は忙しいイメージなのでくわしく聞くのも気がひける」ことなどの記述があった。

## マーカー検査3 医療者からの「検査を受けるかどうか」についての質問

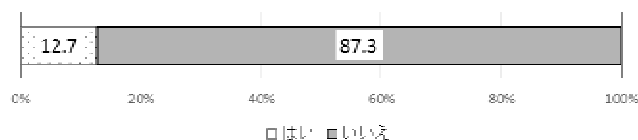
「母体血清マーカー検査を受けるかどうか、医療者からたずねられましたか」という質問に対し、「はい」「いいえ」で回答してもらった。

医療機関調査では、回答のあった134名のうち、「はい」は17名(12.7%)、「いいえ」が117名(87.3%)であった。

保育園調査では、回答のあった335名のうち、「はい」は43名(12.8%)、「いいえ」が292名(87.2%)であった。

医療機関調査と保育園調査ともに、母体血清マーカー検査を受けるかどうか医療者から尋ねられていない人の方が多い結果となった。

図B-5 医療機関 マーカー検査について医療者からの質問



n=134、ただし、無回答21を除く

図B-5 保育園 マーカー検査について医療者からの質問



n=335、ただし、無回答40を除く

## マーカー検査3 医療者からの「検査を受けるかどうか」についての質問 ①時期

母体血清マーカー検査を受けるかどうか、医療者から尋ねられた、と回答した人に、「それはいつ頃のことですか。」と時期を尋ねた。「初診時」「妊娠が確定したとき」「超音波検査でさらに検査が必要だと言われたとき」「その他」の4つの選択肢から回答してもらい、妊娠何週頃かについても尋ねた。

- 医療機関調査では、医療者から尋ねられたと回答した17名のうち、無回答を除く15名の回答があった。「妊娠が確定したとき」が8名(53.3%)、「初診時」が7名(46.7%)であった。
- 保育園調査では、医療者から尋ねられたと回答した43名のうち、無回答の8名を除く35名の回答があった。「妊娠が確定したとき」が20名(57.1%)と最も多く、また「その他」が9名(25.7%)であった。「初診時」や「超音波検査でさらに検査が必要だと言われたとき」を選んだ人もいた。なお、「その他」の具体的な内容としては、「妊娠初期」という回答があった。また「覚えていない」「わからない」などの回答もあった。
- 医療機関調査と保育園調査ともに、母体血清マーカー検査を受けるかどうか尋ねられた人は1割強しかいなかったが、尋ねられた時期は、「妊娠が確定したとき」が多かった。

## マーカー検査4 検査を受けましたか

「母体血清マーカー検査を受けましたか」という質問に、「はい」「いいえ」で回答してもらった。

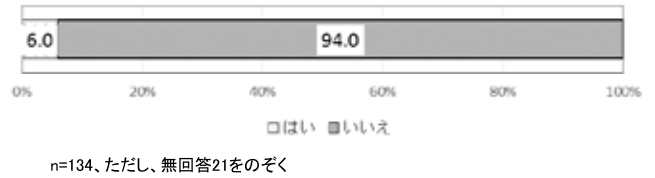
医療機関調査では、回答のあった134名のうち、「はい」は8名(6.0%)、「いいえ」が126名(94.0%)であった。

保育園調査では、回答のあった333名のうち、「はい」は35名(10.5%)、「いいえ」が298名(89.5%)であった。

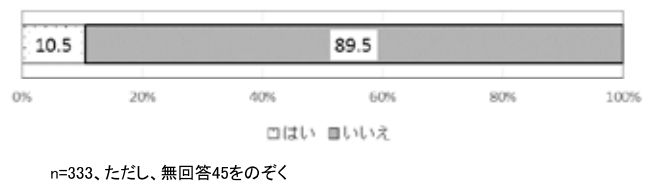
医療機関調査と保育園調査ともに、母体血清マーカーを受けなかった人が大多数であった。

母体血清マーカー検査を受けた割合は、両調査の結果にやや差がみられた。この理由は、保育園調査の方が回答者の妊娠年齢がやや高かったことが影響していると考えられる。それ以外の理由については今後の検討課題とする。

図B-6 医療機関 マーカー検査を受けましたか



図B-6 保育園 マーカー検査を受けましたか



## マーカー検査5 受けた/受けなかった理由

母体血清マーカー検査を受ける理由または受けない理由を教えてください」と記述で回答してもらった。

- 医療機関調査では、母体血清マーカー検査を受けたと答えた8名のうち7名が記述、検査を受けなかったと答えた126名のうち100名が記述していた。
- 保育園調査では、母体血清マーカー検査を受けたと答えた35名のうち32名が記述していた。検査を受けなかったと答えた298名のうち233名が記述していた。
- 医療機関調査と保育園調査のどちらの調査でも、母体血清マーカー検査を受けなかった人の回答では、「(この検査について)知らなかったから」という答えが目立った。その他には、「受けたかどうかがわからない」「医師に(受けるように)言われなかった」や「受ける必要を感じなかった」「産むと決めていた」「自分は検査が必要ではないから」という回答もあった。
- 一方、検査を受けた人の回答の中には、「高齢出産だったため、リスクが気になった」や「不安だったから」という記述があった。また、「配偶者にすすめられた」や「障がいのある子を生む準備のため」という回答もみられた。



## マーカー検査6 検査を受ける／受けないかを誰が決めたか 【医療機関】

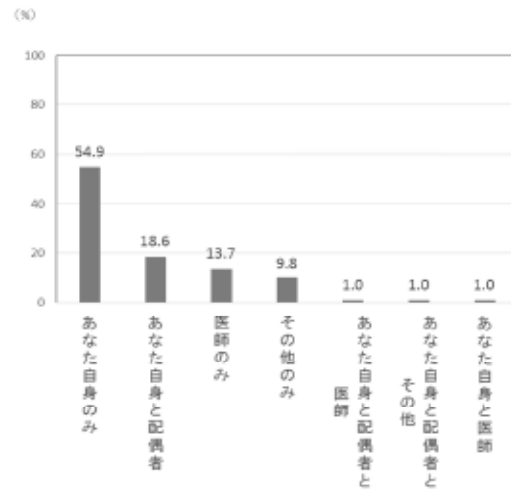
「母体血清マーカー検査を受けるか、受けないかを誰が決めましたか」と尋ね、「あなた自身」「配偶者」「医師」「その他(具体的に )」の4つの選択肢から複数回答で尋ねた。

回答の組み合わせをみると、医療機関調査では、回答のあった102名のうち、56名(54.9%)が「あなた自身」が決めたと回答し、「あなた自身」と「配偶者」が19名(18.6%)、「医師」のみが14名(13.7%)となった。

それ以外の組み合わせも若干あった。「その他」のみは10名(9.8%)だった。

ただし、無回答が54名と、かなり多かった。とくに検査を受けなかった人は、受けるか受けないかを考える機会がなく、誰かが決めたという意識がない、などが予測されるため、無回答が多い理由については、今後さらに検討していきたい。

図B-7 医療機関 マーカー検査 受ける/受けないかを決めた人



n=102、ただし、無回答54をのぞく

## マーカー検査6 検査を受ける／受けないかを誰が決めたか 【保育園】

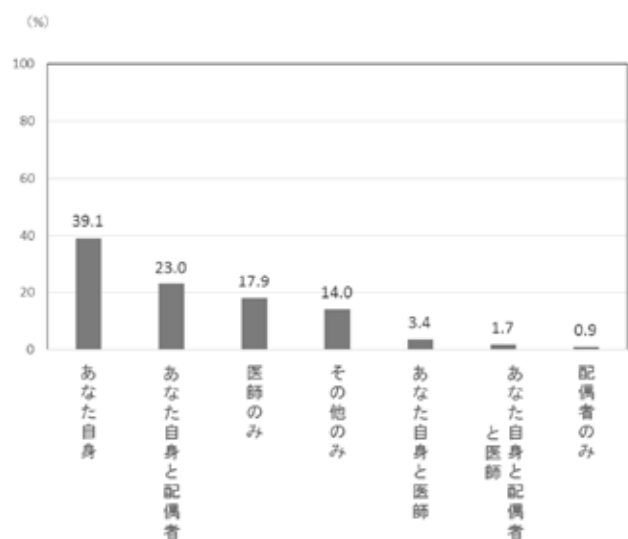
「母体血清マーカー検査を受けるか、受けないかを誰が決めましたか」と尋ね、「あなた自身」「配偶者」「医師」「その他(具体的に )」の4つの選択肢から複数回答で尋ねた。

回答の組み合わせをみると、保育園調査では、回答のあった235名のうち、92名(39.1%)が「あなた自身」が決めたと回答し、「あなた自身」と「配偶者」が54名(23.0%)、「医師」のみが42名(17.9%)、「あなた自身と医師」が8名(3.4%)、「あなた自身と配偶者と医師」と「配偶者」のみが数件ずつあった。「その他」のみは33名(14.0%)であった。

医療機関調査と保育園調査でやや数値に差があるが、母体血清マーカー検査を受けるかどうか「あなた自身」が決めたという回答がどちらも最も多くなった。一方で、「医師」のみという回答も、両者とも比較的多くあることが注目される。

ただし、無回答が143名と、かなり多かった。とくに検査を受けなかった人は、受けるか受けないかを考える機会がなく、誰かが決めたという意識がないなどが予測されるため、今後さらに検討していきたい。

図B-7 保育園 マーカー検査 受ける/受けないかを決めた人



n=235、ただし、無回答143をのぞく

## マーカー検査7 検査結果

「母体血清マーカー検査の結果について教えてください」という質問に対し、「陰性(1/295以下)」「陽性(1/295以上)」「その他(具体的に )」の3つの選択肢から回答してもらった。

- 医療機関調査では、マーカー検査を受けたと回答した8名のうち、陰性が6名(75.0%)、陽性は2名(25.0%)であった。
- 保育園調査では、マーカー検査を受けたと回答した35名のうち、検査結果について回答があった人は31名で、陰性が24名(77.4%)と多く、陽性は2名(6.5%)、その他が5名(16.1%)であった。その他の5名の内訳は「検査中」の人がいたが、他は「覚えていない」「わからない」「忘れた」などであった。
- 医療機関調査、保育園調査ともに、検査を受けた人のうち、結果が陰性と回答した人の方が多かった。

※検査結果についての数値は、少数であってもこの調査には必要であると判断して、4名以下の場合も示した。

## マーカー検査7 ①②③検査による異常の発見

「母体血清マーカー検査の結果について教えてください」という質問に対し、さらに付問で①「結果を聞いたのは妊娠何週頃ですか」、②「そのときどのように感じましたか」、③「その後どうされましたか」、を回答してもらった。

- 結果を聞いた妊娠週数は、医療機関調査では、6名の回答があり、うち4名は具体的な週数を回答しており、15～20週の範囲であった。残る2名は「おぼえていない」という回答であった。保育園調査では、11名の回答があり、うち10名が妊娠週数を回答しており、13～20週であった。残る1名は「初期」という記述であった。
- 結果を聞いて感じたこととして、医療機関調査では「陰性(1/295以下)」の6名のうち記述のあった4名は「安心した」といった内容であり、その後妊娠を継続したことが書かれていた。一方「陽性(1/295異常)」の2名は「正直、ショックだったし不安だった」「おどろいた」と記述し、そのうち1名はその後「羊水検査を希望した」とのことであった。
- 保育園調査では、「陰性(1/295以下)」の24名のうち記述のあった15名のうち10名は「安心した」など「安心」という言葉が入っていた。他は「良かった」「ホッとした」といった内容で、その後も「何もませんでした」「特になし」などであった。しかし「後日、異状が見つかり、結局出産にいたらず」という回答もあった。一方「陽性(1/295異常)」の2名は「羊水検査を受けた」人と「羊水検査にはすすまなかった」人が1名ずついた。

※検査結果についての数値は、少数であってもこの調査には必要であると判断して、4名以下の場合も示した。

## マーカー検査7 ④結果を知らせた相手

「検査結果を誰に知らせましたか」と尋ね、「配偶者」「自分の親」「配偶者の親」「その他(具体的に )」「誰にも知らせていない」の5つの選択肢から複数回答で尋ねた。ここでは、検査の結果を知らせた相手の組み合わせをみていく。

- 医療機関調査では、マーカー検査を受けたと回答した8名で、全員から回答があった。「配偶者のみ」に知らせた人が半数あり、その他に、「配偶者と自分の親」、「配偶者と自分の親とその他」、「誰にも知らせていない」などの回答の組み合わせがあった。
- 保育園調査では、マーカー検査を受けたと回答した35名のうち、回答があったのは27名である。「配偶者と自分の親」に知らせた人がおよそ4割を占めた。その他に、「配偶者のみ」、「配偶者と自分の親と配偶者の親」、「誰にも知らせていない」などの回答の組み合わせがあった。

## マーカー検査8 検査についての気持ちや考え【医療機関】(1)

(回答者全員に対して)「母体血清マーカー検査についてあなたのお気持ちやお考えをお聞かせください」と質問し、記述での回答を求めた。

- 医療機関調査では70名の記述があり、積極的な評価、消極的な評価、そのどちらも記入された回答に分かれる傾向がみられた。
- 積極的な評価としては、「羊水検査よりも手軽で、安全性も高く、これで検査が受けられるのはとても良かった」など、採血だけで済む検査なので、流産の危険がなく受けられることを評価したもの、「検査方法が存在するのであれば、不安を取り除く意味で受けてよかったと思う。陽性だった場合にも心の持ち方が変わるので必要な検査だと思います」など、不安の解消や出産への心構えをする上で必要だとする意見があった。
- 自分の妊娠において何らかのリスク要因がある場合なら受けるかもしれない、とか、自分の意思で受けたいというよりも「選択肢があるのは良い」「受けたい人が受ければ良い」など選択肢が存在していることを、積極的に評価している記述もあった。

## マーカー検査8 検査についての気持ちや考え【医療機関】(2)

- 消極的な評価としては、異常の可能性が高いと指摘された場合にも、治療の方法がないために受けたくないという回答した人たちがいた。「調べても異常がある確率しかわからないものをしてしょうがない」、「妊娠している本人にしてみたら、どのような結果であれ混乱するだけのような気がしてしまいます」などの記述があった。また、胎児の異常を検査して産まないことを選択することに対する批判的な記述もあった。「子どもが生まれるということは、全てをうけいれる必要がある」、「赤ちゃんの命を選別するような検査については私は受けたくないと思っている」などであった。
- どちらともいえない、迷う、という回答も少なくなかった。これらの回答には、積極的な評価をしつつも、消極的な評価についても記述されていた。迷う理由として記述されていた内容としては、①リスクや確率で結果が示される不確定な検査であることによる迷い、②結果を知って胎児を選別できるのかという悩み、③妊娠期間中の不安が、かえって大きくなるのではないかと不安、④生まれてくる子どもや、自分たちの生活の将来を考えて、結果によっては産まない選択をするのではないかと戸惑いなどがあった。④は「結果を聞いて異常であった場合、どうするべきか、悩むし、辛い思いをします。自分は生みたくても、両親(自分の)や周囲から反対されるとは思いますので、悲しいです。でも、産んでから一生のことを考えれば、周囲の意見もきくと受け入れると思います」といった記述に代表される。

## マーカー検査8 検査についての気持ちや考え【保育園】

(回答者全員に対して)「母体血清マーカー検査についてあなたのお気持ちやお考えを聞かせてください」という質問し、記述で回答してもらった。

- 保育園調査では191名の記述があり、医療機関調査と同様、積極的な評価と消極的な評価に分かれる傾向がみられた。積極的な評価、消極的な評価の内容も、医療機関調査の内容と同じ傾向があった。
- 「この検査を知らなかった」という記述も多くあった。それに対して「病院からは何もアナウンスメントは無く、知っていたとしても受けていないと思うのですが、こうして情報弱者になると差が出てしまうのかなど不安にもなります」など不公平感を持つ人がいる一方で、「どういう検査なのか教えてほしかった。でも、順調で異常があるとは考えられない場合は、不安をおおるだけなので必要ないとも思う」と、知って受けるかどうかの判断を迫られた場合、胎児の異常に対して「不安をおおるだけ」になることを懸念する人もいた。
- また、この検査に対する医療者の対応として、子どもがダウン症だという母親は「検査が進むのは良いかもしれないけど、結果が出たあとの母体の心のケアのことetcのソフト面についてもっと考えてほしい。お医者様がマイナスイメージで話すと母はそれを全面的に信じるもの」と結果に対する説明の仕方への配慮や心理面でのバックアップを求める記述をしていた。
- 医療機関調査と同様に、検査をするかしないかに迷い、結果を知ったら悩むという記述も多くみられた。「検査については受けるか受けないかもそうだが結果が悪かった時、どのような決断をするか更に難しくなると思う」というような記述がみられた。